

件十六年十二月廿二日上申
二月第二編ス

一内務省稟候福島縣下若松事

件ニ付犯罪者ニ属スル獄署

費其他實費額請求方ノ件七十

年一月廿四日指令〇十七年
公文録内務省一月第一編

ス

一内務省稟候福島縣出張旅費

追給分仕拂方ノ件十七年五
月十四日

指令〇十七年公文録内務省
五月第二編ス

卯

明治十四年三月宮城縣仙臺ニ東北有志會ヲ開ク尤其前
仙臺ニ在ル有志會ヲ開クノ四社ヲ解々決断取
社ニ解社シテ東北有志會ニ合併センラ誘説セシ趣ナ
シ共済社ハニニ義ヲ異ニスルヲ以テ合併ヲ断リシリ此後
志ニ多陣次存存名ニ送来リ有志社ヲ以テ併リニ有志會
所ト爲シ福多志人河野廣中喜着ハ人今部トリ
向來目的トスル有志會ニ其法儀目たノル
一北河邊橋導ハ有志會ニ奉養社由ニ奉ノ負擔トス
一山形縣導ハ宮城縣導ニ奉養社由ニ奉ノ負擔トス
一仙臺區ニ奉部ヲ奉キ奉部ノ通信報ヲ奉ノ前ニ

但本報ノ通信料ハ三月月金計圓トス

一本報通信委員ハ投票ノ上若生精一郎及ニ大目

漢音ノ兩名トス

一 次ノ公會ハ八月十日ヨリ開會ス

一 會場ハ陞中國盛岡ニ在ラスニ

一 然テ本會ノ原按ハ會員集會ノ上委員ヲ撰ビ

按セシム

一 党衆中公用ニテ若地ヲ選出スル中ハ其地方ノ党衆ニ

テ旅宿セシムニ

但其止宿方法ノ如キハ懇談會ニ在テ之ヲ定ム

一 次會、會日ヲ八月一日ト改正ス

一 會費五圓四拾錢部會トス

但其人ニ付四拾錢ハ會トス

一 右會費ハ議員ニ平賦ス

一 本部費用ハキケ月金部圓トス

一 三月ヨリ七月迄ノ分金部會ヲ七部ヨリ徵集ス

一 東北七州内志ノ名ヲ改メ自由党ト為ス

一 次會ニ於テ日本憲法ヲ議定スニ

一 日本憲法見込案ノ起草者ハ河野廣中鈴木會

定村松龜一郎本多庸一若主精一郎ノ五人トス

右決議ヲ遵守セシム此調ヲスル如シ

一番 福島 三浦信六 八番 本多庸一

二番 生江之利 九番 江藤七郎

三番 三春 若原恭次 十番 若原恭次

四番 石田大三郎 十一番 若原恭次

五番 秋田 柴田涉武 十二番 若原恭次

六番 若原 榎田新 十三番 若原恭次

七番 若原 白根博一 十四番 若原恭次

十五番 伊豆 島 勝 十九番 多摩 大正月滿共
十六番 多摩 丹田千与次 二十番 口 田口正造
十七番 多摩 お松屋一助 二十番 三番 河野廣中
十六番 口 大町 信 二十番 岡中知在

東北七州自由黨盟約

第一条 吾党ハ由家ニ在リ自由ノ主義ヲ以テ相合ス
故ニ自由ノ主義ハ吾党ニ軸ニシテ始終漸ラカニ
トス
第二条 吾党ハ前条ノ主義ヲ以テ社會ノ改良ヲ圖
リ吾人最大ノ幸福ヲ得有スルコトヲ務ムルニシ
第三条 吾党ハ秋日本國國民ノ者ニ同權ナルコトヲ信
ス

第四 吾党ハ秋日本國ハ立憲政体ノ其宜ヲ得ルモ
ナキコトヲ信ス

七州自由黨中々規則

第一条 凡ソ黨衆タラント欲スル者タルハハ査候ノ上
之ヲ許シ而シテ右部ニ報告スルニシ
第二条 吾党ハ吾党ノ主義ヲ擴張セシ為メ毎年
一回若シハ二回公會ヲ開キ諸般ノ事一諮ラ議定
スルニシ
但シ公會ノ期日及會場ホハ前會ノ決議ニ依リ
之ヲ定ムルモトス
第三条 通常會ノ外際要ノ事件ヲハハハ全部過
半數ノ同意ヲ得テ臨時會ヲ開クコトアルニシ
第四条 公會ハ若部ヨリ撰ハシタル總代人ヲ以テ

成立ス

カ五条 七部ヲ七部ニ分チ一物ヲ一部トス

但シ地勢ノ便宜ニ依リ分合スルコトアルヘシ

カ六条 総代人ハ一部十名ヨリ多カラザルモトス

カ七条 若部党衆ハ常ニ交通往来シテ其ニ義ヲ

擴充スルコトヲ勉ムヘシ

カ八条 若部ニ於テ委員ヲ定メ其住所姓名等ヲ詳

記シ相立ニ之ヲ交換シ置ヘシ

但撰任解職等ノ変更アルハ直ニ之ヲ報知スヘシ

カ九条 若部委員ハソクモ毎月一回該地方ノ景

況ヲ通報スヘシ

カ十条 若部党衆中ノ斯主義ヲ擴充セントスルノ際

故ニ遭逢スル者アルハ互相ニ之ヲ救恤スヘシ

東北自由黨密會ノ議件

三月八日午後六時頃東北有志會員當区東一番町竹廻屋ニ密會シ國會開設ノ目的ヲ將來ニ達スルノ手段ヲ議ス

河野廣中第一勳議ニ曰ク東北有志自由黨盟約既ニ成リ生ず此社會ニ立チ他日最大ノ公福ヲ博取セントスル所ノ目的ハ自由主義ニ在リ此主義ヲ貫徹シ以テ公福ヲ得ルニハ如何ナル法方ヲ用ユルヤ諸君モ御高策アルベキハ勿論ナレ先ツ生カ意見ヲ陳フレハ今日ノ形勢ヲ熟察スルニ政府ハ擅制主義ヲ以テ國是トシ飽マテ吾黨ノ自由ヲ排却スレハ仮令幾百回政府ニ迫ルニ國會開設ノコトヲ以テスルモ届ケラレ、トナシ生ず之ヲ言ハ國會開設ノ時節ハ

此後幾年ヲ經ルモ此儘ニテハ到來セサルモノト絶念
スルニシテハ生尋カ執望スル所ノ自由ハ自己ノ思想ニ
存シテ之ヲ口ニ洩スルニ實地ニ之ヲ施スルハ得サルナリ
論シテ茲ニ至ラハ生尋ハ身ヲ以テ自由ノ犠牲トシ敵ヲ
後チ己ノ氣力ヲ鼓勵シ以テ之ヲ搏取スルニアラスコハ
其目的ヲ萬一ニモ僥倖スルヲ能ハサルベシ其斃テ
己ムノ氣力トハ則腕力ニ托シテ千才ニ詭フルノ義ナリ
ト雖モ若シ我ニ六鎮台ヲ征伏スルノカアラハ之ヲ今日
ニ施シ必ス其望ヲ達シ得ヘキモ今日ノ所ニテハ我同志
ハ寡ニ振ハサレハ我ニ千敗ノ患アリテ政府ニ千勝ノ
カアリ到底腕力ヲ頼モ暫ク試ミルヲ得ス故ニ目前ノ
遺憾ヲ忍ビ務ラ地方團結ヲ盛大ニシカラ卷フナ
後此策ヲ出スモノト支ベシ併シ是議ハ真ニ至難ノ一

ナレハ之ヲ第二ノ策ニ措キ先ニ第一ノ策トスル所ヲ言ハ
奥羽七州ノ人民過半数ノ同意者ヲ得ハ今年モモ
明年ニモ唯夕一回政府ニ開設ノ一ヲ請求シ請求ハ諸
人民ハ自ラ國會開設ヲ請求スル
精理アレハ清願ヲ清ボト改ムナリ政府ハ必ス之ヲ許可セサレハ
吾黨已ラ得ス私立國會ヲ開設シ今地方官ハ縣民
ノ撰挙スル所ニアラサレハ其支配ハ受ルヲ得ス地方税ハ
政府特任ノ縣令ニ出スヲ得ス吾黨ハ別ニ地方ノ政
務ヲ組織シタル上出ツベシト言ハ政府ハ生尋ニ解散ヲ
命シ或ハ之ヲ縛シテ獄ニ入レ或ハ刑ニ處スルヲ生尋之ヲ
拒ミ之ヲ避クルカナケレハ身ハ甘シテ其壓制ヲ受ルモ
自由ノ心ヲ益ニ堅堪シ此會ニシテ許可ナキ以上ハ吾
黨ハ租税ヲ出ツ能ハスト固執リテ屈セサレハ政府ハ吾黨
ニ對シ始ハ身代限ノ處分ヲ以テ無理無俸ニ之ヲ徵

收スベシト雖モ奥羽人民過半数者如此場合ニ至ラハ
到底之カ處置ニ苦シ一二年ヲ出スレテ國會ヲ開設ス
ルナラシ之ヲ彼ノ竹槍席旗萬死ヲ期シテ萬一ヲ僥倖
ニ身死シ事成ラサルノ危ニ比スレハ一二年ノ入獄懲役
位ハ身ニ於テ苦痛トモ思ハサルノシナラス却テ愉快ヲ覺
スルナリ若シ入獄懲役ノ苦痛ハ耐エ兼ルトナラハ到底國會
ヲ開クコトヲ得ス生等復何ヲカ言ハシ併シ私立國會ヲ生
等今日ニ於テ之ヲ發明セシニアラス既ニ昨年天下有志
ノ士カ愛國社負ト東京ニ會合セシハモ此論アリ西
國人民ハ皆此策ヲ出スノ内議ナリ天下ヲ七大區ニ分
即チ我奥羽ヲ以テ第七區トナスト迄ニ議決セリ我奥
羽同志者ハ何モ人後ニ落チ碓ニ人ニ依リテ事ヲ為
スノ嘲ヲ招キ居レハ將來此會ノ目的ヲ達スルニ天下ニ

先キ之ヲナシタレ果シテ然ラハ天下有志者ハ我ニ讓ラスト
凡ク國ヲ義ニ感シ四方陸續トシテ私立國會ノ徒崛起
スルコト於ナレ但人民ニ説キ同意者ヲ求ムルニ國會開設
セハ稅租ヲ薄クシ其他無上ノ公福ヲ得ルヲ以テ教
セハ人民ハ必ス同意スルナリ生等同志ノ士ハ宜レク此一
点ニ精神ヲ傾注シ人心中ヨリ遊說委員ヲ撰ビ左ノ
新會ヲ以テ一縣ヨリニ名ヲ委負ラセムコトニ使レタル由
福島ヨリ 二名 宮城 秋田 山形 岩手
青森 各一名
古妻負ハ未タ其人ヲ撰ビタルコトヲ聞カス

同日午後三時該會委員當區北飯沼町昌傳

廣へ密命シ琉球處分ノ得失ヲ訊ス
河野廣中第一勅諭ニ曰ク琉球處分ニツキテハ清國ト
結ヒタル葛藤ハ今解ケス頃日ノ巷説ニ依レハ我公
使ノ帰朝全剛艦ノ發航ハ必畢平和ノ談判破レテ
遼瀋ノ方向ニ傾キタルヲ以テ果レテ然ラハ我國外交ニ
害シ生等最モ憂慮眞心ニル所ナリ和戦ノ議ハ我
國ニ汚サス獨立國ノ体面ヲ保持スルト否トハ此談判ノ
處置如何ニ在リ我政府ハ彼ヨリ遼瀋ノ談判ニ及ハルレハ
如何ノ善シ考ス乎ハ豫知レ難ト庶民ニ之ヲ要スルハ
戦以テ曲直ヲ勝敗ノ間ニ決スルナラシ生等ハ日清ノ考シ
ニ公平ニ考クレハ戦年ノ下ハ實ニ欲セサルナリ又レ我ニ
勝ツモ其利ハ琉球一孤島ノ所有權ヲ失ハサルニ過キス
其失フ所ノ軍費ハ幾干ナリ若レ戦員クレハ唯タ琉球ヲ

失フノミカ我國威ヲ損レ我國辱ヲ招キ我國ノ体面ヲ汚
ス下言ヘカラスルニ至ラシ生等ヲ以テ之ヲ論スレハ琉球ハ我カ
有ニミアラス抑モ亦支那ノ地ニミアラスナリ又東琉球
ハ一島ニシテ日清兩國ノ間ニ接リカラ之ト抵抗スル
一能ハレハ己ロシ得ス國ノ平和ヲ保チ他ノ攻撃ヲ免レ
ン考ソ兩屬ノ姿ヲ考セシモノナリ况レヤ奪シ我藩國ニ
入ルノ理ハナキナリ如此理義ノ在ルニモ拘ハラズ強テ之ヲ我
カ所有ニセントスルハ我政府ハ外國ニ接レ掠奪主義ヲ以
テ外患ヲ惹キ起レ國ノ疲弊ヲ顧ミサル政府ナハ生等隨
從スル一能ハス故ニ萬一戰端ヲ開クノ不幸ニ際ヒハ生等ハ
飽マテ政府ニ迫ルニ以テ我ニ主張シ琉球ヲ以テ東洋ノ一
獨立國ト考スニ若カス昨日屬國ナリモ今日独立國ト認
メ考スハ歐洲文明國ニ於テ其例解カラサルナリ果シ

大文

テ策ノ急ニ出ツルハ我乱ノ憂シ免カレ兩國ノ体面ヲ
維持シ琉球國ヲレク久レク日清兩國ノ軌下ニ若シタル
千載ノ羞恥ヲ一朝解寂スルニ至リ莫ニ我國千古ノ
名新ニアラヌヤ保レ政府ハ執拗ニモ必ス籌策茲ニ
出テサレハ生等カ今日其言ヲ建議レタトラ據納セラル、
ナレ依テ久レク機ノ至シ復ツヘシ痛、南戰ヲ宣告スルノ
前ニ現今ノ兵負ニテハダシ交スルヲ能ハサレハ政府ハ國
民軍ヲ徵募スルナラシ其令ノ発スルヲ機トシ生等此論
ヲ主張シ徵募ニ應ロサレハ政府ハ外ニ清兵ノ未撃ヲ受
ケ内ニ川敵ノ我黨カラハ己レシ得ス我黨高麗ノ國會
ヲ許可シ莫ニ我全國人民ノ輿論ヲ尽レ和氣ノ策ヲ
決スルニ至ラン是生等カ國會ヲホムルノ一好手扱ナリ諸君
此論ヲ是トロハ擧テ此主張ヲ主張スヘシ是レ最モ善世ニ

行ハレ安キ議ナリ甲乙交々論駁アリレモ終ニ河野ノ議ニ可
決レタル由

奸民暴舉之義我之付上申

本知下北會津南會津河沼大沼耶麻東蒲原
六郡聯合會決議道踏園鑿之義ハ若松士族及
市街其他沿道ニ係ル者ハ先來ニ希望スルト雖モ
沿道外及耶麻郡内人民之内不服ヲ唱フル者
之者ニ候也右郡内ハ自由党員之數多者有ル候
ヨリ追々教唆誘導セシヨリ不服ヲ唱ヘ服
役代夫ヲ拒ニ或ハ訴訟等ヲ企内矣不徳之至
ルモ畢竟自由党宇田成一等ヲ巨魁トシ專
ラ行政部ノ行為ヲ是非ニ據リニ壓制苛酷
名ヲ付シ無智ノ人民ヲ煽動シ此等ニ投シ安民
離隔ノ策ヲ施シ大ニ誣党ノ主義ヲ逞クセト